

膝関節の疾患の多くは、膝単独ではなく、腰椎・仙椎レベルの中枢部との関係で不具合が生じていることも考えられます。

## 膝痛の一般的な治療

鎮痛薬の服用や注射などの処置  
消炎剤・湿布薬  
温熱療法、筋力強化、生活動作指導  
物理療法、運動療法によるリハビリ 等



## 膝痛に対する遠絡統合医学では

遠絡統合医学での診方では、まず局所性か中枢性か二つの病態に分けて考えます。痛む部位が明らかに外力による損傷(打撲、外傷、骨折等)である場合は局所(症状部位単独)と診ます。特にはっきりした原因や炎症所見が無くまた、両側に現れる痛み等の症状は中枢性(中枢神経系機能の問題)と診ます。

例えば、レントゲン検査による診断で、変形性膝関節症や膝関節炎の診断名がついている膝痛であっても、中枢神経系の問題を改善することで痛みを消失させる可能性があります。

中枢性の膝痛における原因は、主に腰椎4番5番の高さを中心としたものと、仙椎2番3番の高さを中心としたものがあります。その部位の中枢神経の障害により、膝に不具合があるように意識されることや、機能連係が乱れることがあります。

中枢神経系の機能を再建する事は、膝痛を根本的に良くすることにつながります。

膝の痛む部位と中枢神経の高さの関係

膝の内側 ⇒ 仙椎S2.3レベル  
膝の前側～外側 ⇒ 腰椎L4.5レベル

遠絡統合医学では、神経機能の障害を神経細胞と神経線維に分けて分析しています。痛み症状は神経線維の障害になります。神経線維の障害が修復されるためには、血液やリンパ液、電解質が十分に循環する必要があります。遠絡統合医学では、神経系の伝達も含め、血液やリンパ液、電解質などの流れを総称してライフフローと呼んでいます。スムーズなライフフローが十分に確保されている事は自己の修復力、治癒力に直結します。遠絡統合療法の目的はライフフローを調整する事にあります。つまり、身体の自己治癒力を再建させる事になります。「長く思っている」「症状が変化しない」という状態の根本に対してのアプローチができます。

**症例 1****50代後半 女性**

車を運転している時にも左膝の内側がズキズキと疼き、「膝が痛い」が口癖になっていました。3年前からの症状で、整形外科や整骨院に通院経験がありました。

来院時、左足に十分な荷重がかけられず、引きずるような歩き方をされていました。両方の膝を比べると、若干左膝の方が膨れているようにも見えましたが、熱もなく特に強い炎症所見は見受けられませんでした。

初回治療後は膝に重さが残りましたが、左足に体重をかけて通常に歩いて帰宅されました。車を運転中の疼きは、初回治療後一切発症しないで生活をされています。

通院は2ヶ月で7回来院され終了しています。初月は5回、次の月は2回の来院でした。周りの人に「『膝が痛い』と言わなくなったね」と声を掛けられて初めて「膝が痛い」が口癖だったことに気付いたとのご報告をいただきました。

**症例 2****70代後半 女性**

両膝痛を訴える70代後半の女性が来院。飲食店を経営され、スポーツジムにも通われるアクティブな生活を以前から習慣にされていました。

思い当たる原因もなく、2か月前より徐々に両膝の痛みを意識するようになりました。痛みの位置は、膝の正面から内側に広がっていました。整形外科通院を始めても痛みが改善されず来院されました。初回の来院時には、膝痛で歩きにくく荷物は付添いの方に預けての移動でした。

仰向けでの検査時、左膝の痛みの方が強く、動かすことが出来ない状態でしたが、右足の方は曲げ伸ばしが出来ました。

治療対象は、腰椎仙椎レベルの中樞神経を中心に計画。腹部から赤外線専用治療器を用いて治療を開始した。

通常3分間で行う処置を、痛みによる運動障害が強かったので3回行い、計9分に延長して処置を行いました。痛みによる運動障害は中枢神経系の異常で過剰な反応になっていました。処置後は膝の運動が改善されており、さらに手足の治療点を押す治療に移行し、初回の処置を終えました。

初回から、両側共に荷重時の膝痛に増悪がなく、スムーズに歩けるようになりました。初回は、翌日には痛みが戻ってきましたが、10日間で3回の治療を行い、日中はほとんど膝の痛みを意識せずに生活ができるまでに回復されました。

## 解説

手足の痛み治療には中枢神経レベルの処置が重要となります。意識は脳で行う処理ですが、末端の痛みの情報や身体の状態の情報は、必ず背骨を通る神経に集められ脳に伝達されます。しかし、この中継点である背骨を通る中枢神経の異常があれば、生活に支障をきたす程の症状を訴えるケースがかなり多くなります。既存の医療でも、背骨の神経の処理を薬で強制的に抑える方針が取られる事がありますが、遠絡統合療法では薬に頼る治療をしないで正常な処理ができる状態に回復させることを目的に処置を行います。